

教科	科目	単位数	学年	集団
探究	数学探究	2	2	総合探究科理系

使用教科書	副教材等
	新課程 白チャート数学 I + A (数研出版)

科目の目標
既習科目である理数数学 I の内容の徹底した修得や更なる深化を図るだけではなく、数理のテーマについての学習を通して、物事に対する多様な思考方法を習得し、実社会における課題解決能力を身に付けることを目的にしています。理数数学 I の基礎を発展させ、様々な分野の事象に関連させ物事を考察していきます。その過程で数学を探究していくのに必要な論理的な思考や技能を向上させ、それらを数学活動、そして他学問における様々な場面に活用する能力を身につけるための科目です。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	・数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	
確認テストや定期テスト、単元レポートやノートや課題の記述内容の点検。総合的に評価する。	

学習計画						
月	領域	単元	単元や題材などの内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	2 次関数	2 次関数とグラフ	2 次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。	○	○	○
		最大値・最小値	2 次関数の最大値や最小値を求めることができる。	○	○	○
		2 次方程式	2 次方程式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解している。	○	○	○
		2 次不等式	2 次関数のグラフを用いて 2 次不等式の解を求めることができる。	○	○	○
9 10 11	図形と計量	三角比	三角比の定義を理解し、鋭角から鈍角までの三角比を求めることができる。	○	○	○
		正弦定理 余弦定理	正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	○	○	○
		三角比の活用	図形の構成要素間の関係を三角比を用いて考察するとともに、定理や公式として導くことができる。	○	○	○
12 1 2	場合の数と確率	順列 組合せ	具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。	○	○	○
		独立試行	独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。	○	○	○
		条件付き確率	条件付きの確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	○	○	○
3	総合問題演習		数学IAの総合問題について理解を深めている。	○	○	○